

広 報 ま っ だ い

町の教員異動発表される

学校の年度末人事異動も一段落いたしましたので報告致します。今年も左記の教員異動が行なわれました。辞職者一九名、転出一九名、転入一二名、配置替七名、新採用二六名、休養一名、計八四名という大型異動でした。

◆ 辞 職

- 北山小 植木康曼
- 松代小 内山弘夫 (埼玉県三郷第二小へ)
- 清水小 池田宣子
- 孟地小 阿部夏江
- 塩田元代 (松代小小屋丸分校へ再就)
- 滝沢分 小堺雅子
- 蒲生小 秋山成子 (中頸・川谷小へ再就)
- 〃 齊藤市野 (西頸・高倉小へ再就)
- 儀明分 近藤トミ (刈羽・山中小へ再就)
- 峠 小 菊池久子
- 〃 田辺友春 (室野小へ再就)
- 松代中 佐藤幸治 (松代小へ再就)
- 清水中 武田みゆき (松之山中へ再就)

- 山平中 中野紀代枝
- 〃 大野真理子
- 奴奈川中 岩井愛子
- 菅刈分 渡辺春彦 (千葉県へ再就)
- 松代小 宮川君男 (菅刈分へ再就)

◆ 休 養

- 奴奈川中 小川七実

◆ 転 出

- △松代小学校
- 黒川勝子 牧村川上小へ
- 伊与部春彦 南魚湯沢町神立小へ
- 宮下善正 牧村沖見小へ

- 宮下久子 中頸妙高村大鹿小へ
- △清水小学校
- 横川静実 糸魚川市小滝小へ
- △室野小学校
- 鷹股謙児 西頸木ノ浦小学校校長へ
- 郡 正俊 中頸頸城村南川小へ
- 長ヶ部敦子 中頸柿崎町下牧小へ
- △峠小学校
- 村田静子 中頸吉川町源小へ
- △松代中学校
- 島田尚一郎 県立高田盲学校へ
- 長ヶ部 仁 中頸大湯町中へ
- 石野義晴 直江津中へ
- 小黒正範 三島出雲崎中へ
- △清水中学校
- 内藤清蔵 高田市高士中へ
- △孟地中学校
- 利根川清巳 県立柏崎養護学院へ
- △山平中学校
- 江平 稔 中頸柿崎中へ
- 種岡隆夫 十日町市下条中へ
- △奴奈川中学校
- 郡美和子 高田市高士中へ
- △孟地小学校
- 古川正子 栃尾市栃尾小へ

- △松代小学校
- 市川寛永 十日町市十日町小より
- 小林 哲 中頸頸城村南川小より
- 岩崎 守 西頸能生町磯部小より
- △孟地小学校
- 田中弥生 県立松代高等学校より
- △室野小学校
- 高橋正美 高田市城西中より
- (校長)
- △峠小学校
- 水島 信 西頸能生町磯部小より
- △松代中学校
- 古沢 勝 中頸柿崎中より
- 黒崎清子 高田市城西中より

- △松代小
- 蒲生小 菅刈分
- 室野小 松代中
- 北山小 儀明分
- 孟地小 清水中
- 山平中 山平中
- 奴奈川中 奴奈川中

- △松代小
- 蒲生小 菅刈分
- 室野小 松代中
- 北山小 儀明分
- 孟地小 清水中
- 山平中 山平中
- 奴奈川中 奴奈川中

- 内山 勇 直江津中より
- △孟地中学校
- 若月義郎 松之山中より
- △山平中学校
- 風間清博 高田市城南中より
- 五十嵐テズ子 西蒲黒崎中より

- ### ◆ 配置替
- 蒲生小 山岸ハルノ 松代小より
 - 小屋丸分 齋藤国平 孟地小より
 - 孟地小 片山昌子 海老分より
 - 北山小 堀川喜久司(教頭)
 - 筋平 小
 - 寺田分 山岸フジノ 蒲生小より
 - 儀明分 倉石芳子 寺田分より
 - 清水中 小堺陽七郎(教頭)
 - 孟地中より

- ### ◆ 新採用
- 松代小 宮沢光子、若井美千代、宮川君男、塩田元代、佐藤幸治
 - 清水小 鶴巻光臣、井部春美
 - 孟地小 清水武彦、五十嵐トミ、田原一郎、朝比奈トミ、齊木まり子
 - 北山小 福原博夫
 - 蒲生小 笹川恵美子、瀬田マリ子
 - 室野小 池田ニキ子、田辺友春
 - 峠 小 間島早苗、岩崎逸男
 - 松代中 吉野健治
 - 清水中 後藤律子
 - 孟地中 小野寺邦義
 - 山平中 島田美保
 - 奴奈川中 小川卓、渡辺美穂枝、湯村敦子
 - (異動合計 八四名)

- ### ▲ 転 出
- 校長 宮川 豊 佐渡女子高校校長
 - 教頭 藤井章一 村松高校教頭へ
 - 小田耕一 六日町高校へ
 - 内山邦夫 水原高校へ
- 尚、県立松代高等学校の異動も発表になりましたのでお知らせします。

昭和45年4月10日発行
号 外
東頸城郡松代町公民館 次
館長 富 沢 清
電話 松代 1 番
印刷 松代印刷所

田中弥生 孟地中養護教諭
小林幸子 退職

▲転入
校長 大竹益雄 高田高校より
教頭 陶山正和 教育研究所より
村山良一 吉田商高校より
計良恭雄 小出中より

▲新採用
二宮幸子、山本優子

見とおし明るい蚕糸業

一九七〇年を境に日本の農業は大きく変動しようとしています。ちやうど蚕糸業界にとって、さんさんの年と言われた、昭和三三年頃を思い出します。桑園二割減反、夏秋蚕掃立制限など、まさに養蚕にとっては恐慌の年でした。朝鮮動乱の終局と共に吹き出した不景気の嵐はなかなか吹き止まず化学繊維の著しい台頭に追い打ちをかけられて、長い間安定して来た養蚕が根こそぎ揺らいで、関係者も暗中模索でいた事は記憶に新しいことと思います。幸い日本経済の急速な成長のあおりで絹も売れ出し、蚕糸業界の合理化努力などとあいまって、なんとか切抜けて来ましたが、とても長い一〇年間でありました。

さて政府は米の生産調整の手段として、稲から他作物への作付転換を打出し、転換奨励金制度を設けることにいたしました。今農林省が積極的に転換を奨励している作物に桑があります。前記のことを考えますと何と皮肉なことでありましょう。然しこれは漠然としたものでなくしつかりとした裏付があるので農林省でも自信を持って進めている訳です。御承知の如く、最近の絹、生糸の消費は国の内外を問わず、着実に伸びてきており、長期見通しにおいても堅実な需要増が見込まれています。

一方国内における繭の生産は依然として伸び悩みを続け、旺盛な需要に対して生産が間に合わず、外国から原料繭や生糸を輸入してようやく需給の均衡を保っている現状であって、このまゝでゆくとかつての「生糸日本」から「世界

▲4月26日は知事選挙です

◆さそい合せて棄権のないように投票所へ
◆あなたの一票が生活につながる大切な政治を作るのだということを考えて、必ず投票いたしましたましよう。

◆明るい、正しい選挙は一人一人の有権者の心がけからです。

松代町選挙管理委員会
松代町明正選挙推進協議会
松代町公民館

おたんじょう
おめでとう



(三月)

の絹を着る日本一になりかねません。今年の生糸の需要見込みを繭に換算しますと、昨年の繭生産量の一〇〇%を増産しなければならぬ計算になります。現実には一〇%の増産は無理だと考えられますので、これからの数年、業界は繭不足に悩むことでしょう。今年の繭値は最近になく高いところ決定される見込みが強くなっています。

強気に計算すると繭一kg当り一〇〇〇円以上見えておけば無理のないところでしょう。

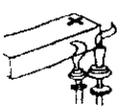
こゝ二、三年の間に養蚕業は急に減じてきていますが、その大半は規模の小さい一、二グラム養蚕家です。逆に規模を拡大しようとする農家、新規に開始する農家が増えつゝあります。いかに繭値が高くとも規模が小さければ、たいした収益を希めませんので、規模を拡大し、性能の高い経営を図ることがこれからは要求されます。

これからの農業は生産されたものが、販路の心配もなく安定した値で売り渡されるような作物を選ぶことが必要です。養蚕は最もこれに適した作物と言われるのではないでしょう。

(松代蚕業指導所)

- | | | |
|------------|-----------|-------|
| 氏名 | 保壽者 | 部落・家号 |
| 利 義(若月忠次郎) | 千 年(川端) | |
| 春 美(菅井 國雄) | 幸 島(文左五門) | |
| 健 二(中村 弘治) | 田 代(稲場) | |
| 信 子(佐藤 耕作) | 滝 沢(木左五門) | |
| 健 夫(馬場 利夫) | 小 池(大西) | |
| ゆかり(関谷英市郎) | 松 代(やじん) | |
| 愛 子(小山 敏男) | 太 平(ふじたや) | |
| 博 (仲村 竹吉) | 儀 明(三郎えん) | |
| 清 人(池田 進) | 田 野(清兵衛) | |
| 安 (市川軍八郎) | 池 之(畑新屋) | |
| 孝 子(武田 博之) | 千 年(高島や) | |
| 善 之(小塚 孝作) | 蓬 平(助次郎) | |
| 常 夫(室岡 重平) | 仙 納(太田) | |
| 一 史(関谷 宗一) | 松 代(たばたや) | |
| 美知子(高野 富久) | 松 代(住宅) | |
| みさ子(谷沢 定) | 濁 (しも) | |
| 裕 二(小塚 幸男) | 室 野(川ばた) | |

おくやみ
(死亡)



- | | | |
|-------|-----|----------|
| 氏 名 | 世帯主 | 部落・家号 |
| 若井 宗一 | 弘太郎 | 蓬平(おっさま) |
| 相沢 カト | 十郎 | 菅刈(仲) |
| 中村 繁藏 | 鉄夫 | 清水(桶や) |
| 山本 マス | ミユキ | 大伏(田方) |
| 山岸常治郎 | 正一 | 蒲生(田善) |
| 室岡与太郎 | ツネ | 仙納(かみや) |
| 山岸 シゲ | 誠一 | 蒲生(田端) |
| 美濃和ミヨ | 武男 | 福島(九せん) |